

平成19年4月、地名地区に新しくお茶の研修施設が誕生しました。この施設では、茶手揉みの研修会や、新しい製品の商品化に向けた釜炒茶の研修を行っていく計画です。今号では、この茶業振興の拠点となる新施設の概要をご紹介します。

施設建設の目的

当町の産業の中心である茶業の振興のため、生産基盤である農道や茶改植の整備、農業近代化のための共同茶工場や防霜施設の整備などに積極的に取り組んでいます。

近年、近隣の地域では、静岡空港や第2東名自動車道の

建設が進み、今後、交流人口の増大が見込まれており、観光と農業など産業界の連携を通じて地域の活性化が期待されています。

また、茶系飲料の台頭に見られるように茶の保健機能に高い関心が寄せられ、消費者嗜好では、蒸製一辺倒だった茶から釜炒製や半発酵茶、発酵茶など、多種多様なお茶が求められるなどの変化が生じています。

このため、川根茶産地として将来に亘って産業を維持継続するため、地域の豊かな自然に加え、地域に即した話題性や希少価値のある商品を開発、主体である緑茶の有利販売へ結びつけることを目的として建設されました。

建設地選定の理由

町農林業センターは、昭和38年に町の茶の生産・振興を担う施設として地名地区に建設されました。全敷地

280aの内、150a

が茶園であり、再改植のための茶苗木の生産や、茶との複合作物の自然薯・ワサビの苗の生産のほか、茶栽培での

新技術の実証などを行っています。年間を通して町内茶農家の人や、県・農協関係者の来場も多い施設です。

手揉茶の研修や、釜炒茶の研修に必要な茶生葉の供給も

茶業振興の拠点として

ちいぎしげんそうこうりゅうかつようしせつ

「地域資源総合交流活用施設」誕生

(地名地区 農林業センター内)



■本庁産業課川根茶係

☎(56) 2226

■農林業センター(地名)

☎(56) 0506



献茶式神事にて



川根茶魂のシンボル柱



手揉茶研修施設にて

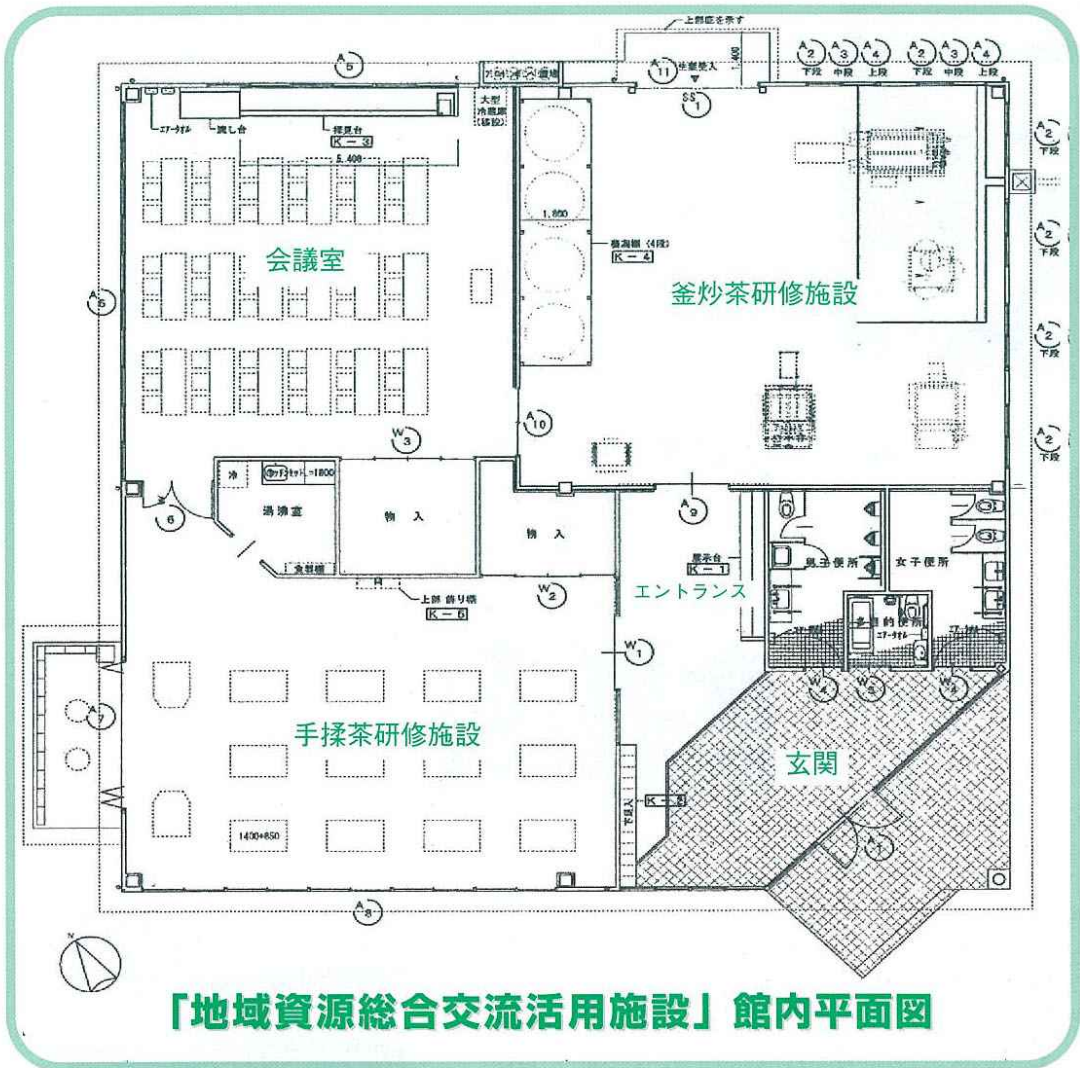


釜炒茶研修施設にて



エントランス脇

上の写真は全て4月15日「献茶式及び施設初披露」の様子です



「地域資源総合交流活用施設」館内平面図

容易にでき、茶農家との交流、関係機関の指導もこれまで同様期待されます。
また、主要道路や鉄道との交通の便も良く、交流施設として最適であるとの考えから、農林業センター内（地名地区）に施設建設を決定しました。

施設の活用方法

「手揉茶研修施設」では、手揉み技法を修得し良質茶を製造できる製茶師の育成と、消費者の茶手揉み体験場所として活用します。

「釜炒茶研修施設」では、製法独自の香味のある釜炒茶の商品化に向けた取り組みを行い、また、消費者への情報発信を行います。

地域資源である茶を活かした山村と都市住民との交流と学習機会の場を提供し、川根茶の振興を図ります。

建設の概要

■事業名
平成18年度新山村振興等農林漁業特別対策事業

■事業主体
川根本町

■建物の構造
新設 鉄骨造平屋建1棟
(466㎡)

- ・手揉茶研修室
- ・釜炒茶研修室
- ・会議室
- ・エントランス
- ・玄関・便所等

■事業費

総額 91,140千円
 (国庫補助 45,570千円)
 (県費補助 18,220千円)
 (町負担 27,350千円)
 *町負担額の内、合併特例事業債 26,800千円

研修施設などの紹介

施設の紹介は次のページに掲載しています。